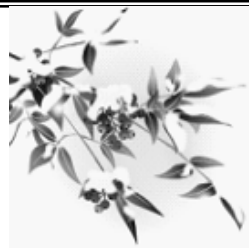


福祉だより ぬくもり



第61号

平成24年2月16日

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 生田 收



横瀬博・副
分区長の親し
みのある司会
で開かれ、生
田収分区長
の次のよう
な歓迎のあい
さしがありました。
「ここ二、三
日は寒さが
厳しかつた
ですが、今

今年も楽しみにされていた社
交協会が、一月二十五日にサ
イ交流会」が、

参加者の元気と笑顔に感動

平成二十三年度ふれあい交流会

北六甲台 木割敏男

昼食は二段重ねの和
風懐石で各丁目ごとの
テーブルでは、にこやか
な笑顔で話も弾みまし
た。食後はカラオケタ
イムとなり、丁目ごと
の代表者が、日頃鍛え
た自慢の喉で会場を沸
かせました。最後の山
口秋桜会の佐藤勲
さんのギター演奏と弾
き語りに、会場の皆さ
んはしんみりと聞き入
り、演奏後には盛大な
拍手が起きました。

ボランティア研修

アイマスク体験で学んだこと

上山口東 横瀬道代



2月1日、アイマスク体験学習を行いました。市社協の音川さんを講師に、36名の参加者による学習会でした。まず講師から、ガイドヘルプ（介助）のポイントについて説明を聞きました。

その後、参加者が二人一組になって交互にアイマスクを装着してガイドヘルプの疑似体験を行いました。

ガイドヘルプ者がアイマスク装着者に対して歩行先の障害物などを具体的に説明します。「足を出して下さい」「段差があります」「右に曲がります」「左にドアがあります」「触って下さい」などと声をかけます。手を伸ばして屈んで椅子に触れさせて座ってもらいます。

アイマスク装着者は、闇の中に1人であるような恐怖を感じながら、ガイドヘルプの指示に頼ります。相互に信頼関係を作ることによって、相手に安心感を与えるのが「ヘルプ」であることを知り、相手の立場に立って考えてみることの必要性を感じました。ボランティアの人たちとグループ討議を行い、怖いと感じた体験をしてみて、サポーターがいかに重要であることを認識しました。

今回の学習体験で、健常者では気づかない点が数々あり、理解をますます深めることが大事であると痛感しました。これからのボランティア活動は、高齢社会においてますます必要になると思います。色々なことを体験して、日々の生活の中で意識して取り組んで活動していきたいと思っています。



北六甲台ボランティアセンター（火・木曜日 9:00～12:00）

電話 078-904-4576

お知らせ

チャリティーゴルフ様よりご寄付 62,581円を頂きました

ふれあい交流会



食事は、例年この会場で調理された幕の内弁当が提供される。今年も二段重ねのお重に、お刺身盛合せ、酢豚、酢の物や煮物の付け合わせに炊き込みご飯、フルーツとスイーツのデザートも付いている。



生田分区長の開会挨拶



司会の横瀬副分区長

豪華なお弁当と
カラオケで盛り上がり

カラオケ熱唱！

各丁目代表の6人の歌自慢たちがマイクを握る



ギター弾き語り



会場スタッフ



1丁目



2丁目



3丁目



4丁目



5丁目



上山口東

